

福岡県の主な農産物の生産状況

令和3年7月1日現在
(専技情報より抜粋)

◇早期水稻（夢つくし、コシヒカリ）◇

現在、幼穂形成期～穂ばらみ期で、草丈はやや高く、茎数はやや少ないです。病虫害は、ウンカ類の発生がやや多いです。

移植後の低温の影響で、初期生育はやや遅れていましたが、5月中旬からの高温により、生育は回復しており、出穂期は平年並の7月8～15日頃の見込みです。

出穂前に斑点米カメムシの発生源となる畦畔の除草を行いましょう。

開花期まで十分な水が必要なため、水を切らさないよう注意し、浅水管理を徹底しましょう。

◇普通期水稻（夢つくし、元気つくし、ヒノヒカリなど）◇

田植えの最盛期は、「夢つくし」が6月5～12日頃、「元気つくし」が6月20日頃、「ヒノヒカリ」が6月26日頃であり、麦の収穫が早かったことから平年よりやや早く進んでいます。

苗の活着は概ね良好で、生育は順調ですが、一部では、移植後に降雨が少なく、ほ場の乾燥も見られます。

雑草が多い場合には、中後期の除草対策を実施しましょう。

分けつ発生促進と徒長防止、スクミリンゴガイ被害軽減のため、浅水管理を徹底しましょう。

余り苗は、いもち病の発生源となるので、直ちに除去しましょう。本田でいもち病の発病を確認したら直ちに対策を行いましょう。

◇大豆◇

現在、周囲溝や弾丸暗渠の施工などの播種前作業を行う時期です。

播種は県北地域を中心に6月20日頃から始まりましたが、本格的には7月上旬に実施される予定です。

ほ場周囲の作溝と排水口の整備等の排水対策を徹底しましょう。

雑草が多い場合は、播種前に雑草対策を実施しましょう。

天候とほ場条件を見ながら適期播種に努めましょう。

◇アスパラガス◇

5月上旬までの春芽の出荷は、冬期の休眠覚醒に係る低温積算温度が確保されたことから順調に進み、出荷最盛期は県南で3月上旬、県北で3月中下旬となりました。春芽出荷量は前年、過去5か年平均よりも約2割増加しました。

夏芽の収穫は5月中旬から徐々に増加し、6月下旬が出荷最盛期となる見込みです。

6月中旬までの出荷量は、前年、過去5か年平均よりも多い状況です。販売単価、販売金額ともに順調です。

病害虫は、アザミウマ類やハダニ類の発生が散見されます。

収穫量の増加に伴い、2週間ごとに窒素成分で3～4kg/10aを追肥しましょう。梅雨期の排水対策を徹底し、気温や湿度の変化に留意して、病害虫の発生初期の対策を徹底しましょう。

◇ブドウ◇

加温栽培は、4月下旬から出荷が開始され、着色・酸抜けは良好です。

無加温以降の栽培は、袋がけ後～着色期、生育は前進化傾向です。結実には園地による差があるものの、トンネル栽培の無核「巨峰」、「ピオーネ」では概ね良好です。露地栽培の有核「巨峰」で開花期の降雨・低温により単為結果が多く結実は著しく不良です。

品質確保のため適正着果量を厳守しましょう。

梅雨期の病害虫対策（特にべと病、黒とう病）を徹底しましょう。

裂果防止のために梅雨期の排水対策を徹底し、土壌水分の変動を少なくしましょう。

◇ナシ◇

「幸水」の出荷は、加温ハウスは6月下旬から、トンネルは7月中旬からの見込みです。果実肥大は、平年並みで、概ね順調です。

露地「幸水」は、開花が前年より10日早く、トンネル「幸水」との開花差が少なく、果実はやや小玉です。小玉の要因は、4月中旬や5月上旬の低温、開花が早く、結実が良いことからの摘果作業の遅れ等です。

病害虫は、4月中旬より黒星病が散見されましたが、罹病果の除去や適期防除により現在の発生は少ないです。

今後、露地の「幸水」を中心に、裂果の発生や長雨時の黒星病の後期感染が懸念されます。

梅雨期～収穫期の病害虫（黒星病、輪紋病、炭そ病、ナシヒメシンクイ、カメムシ、ヤガ）対策を徹底しましょう。

施設では、果実品質等の状況をみながら、適期収穫を徹底しましょう。
露地では、誘引等の新梢管理、樹上選果を徹底し、果実品質向上および次年度の花芽確保に努めましょう。

◇施設ギク◇

6月から「フローラル優香」「精の一世」等の夏秋ギク品種の出荷が本格化し、品質は概ね良好です。

ハダニとアザミウマ類の発生は多く、一部でえそ病や白さび病の発生もみられます。

7月から秋ギク（11～5月出荷）の採穂が始まります。

温度上昇による葉焼け予防のため、遮光剤の塗布や白寒冷紗の被覆、土壤水分管理や換気に注意しましょう。

ウイルス発病株の除去とアザミウマ類の対策を徹底しましょう。

秋ギクの親株は十分確保し、梅雨期の排水対策を徹底しましょう。生育が悪いものやアザミウマ類の吸汁痕の多いものからの採穂は避けましょう。

◇シンテッポウユリ◇

現在、7月出荷作型は発蕾期、盆用の8月出荷作型は抽だい～花芽分化期です。

8月出荷作型の「西尾3号」及び「西尾エクセレント」の生育は、定植後の降雨の有無により差が見られ、平年並み～やや遅いです。

アザミウマ類の発生が多く、葉枯病の発生は一部で散見される程度です。

アザミウマ類の対策を徹底しましょう。梅雨期は葉枯病の発生に注意し、降雨前の予防に努めましょう。

梅雨期の排水対策および梅雨後期の葉焼け対策を徹底しましょう。

◇豚・鶏◇

6月の豚枝肉価格は、ほぼ前年並みで、過去5年平均よりやや下げています。肉食需要が根強く、例年出荷頭数が少なくなる時期のため、前月比では117%と上がっています。

鶏卵価格は、鳥インフルエンザの影響から、引き続き産地在庫が少く、前年比153%（過去5年平均比141%）と上がっています。

暑熱期を迎え、採食量が低下するため、送風や寒冷紗等で遮光し、暑熱対策を徹底しましょう。

大雨対策として雨漏りの修繕、排水溝の整備など畜舎内の浸水を予防し、農場の衛生管理を徹底しましょう。